

ふるさと 見て歩き

第121回

みうらじんじゃ

三浦神社

【神社の概要】

三浦神社は小田野地域にある空智上人を祭神として祀る神社です。昔は祭礼が旧3月15日と旧7月15日の2回行われていましたが、現在は7月15日のみ行われています。空智上人は、源頼朝の家臣である三浦一族の一人、三浦大介義明であるとされています。伝説上では那須野（現栃木県那須町）にある殺生石に封じられた九尾の狐（玉藻の前という美女に化けていた）を討伐したとされ、吉田八幡神社の三浦杉はその討伐祈願に植えたものと伝えられています。かつては三浦神社の祭礼にこの伝説にちなんで、三浦大介と玉藻の前の山車が出されました。しかし、残念ながら現在では山車が祭礼に出ることはありません。



▲三浦神社 社殿

【かつて寺院があった三浦神社の地】

現在、三浦神社が建つ地には、もともと神社ではなく寺院が存在しました。中世期、前述の空智上人により建てられた浄土真宗の永福寺という寺院です。

江戸時代の『開基帳』を見てみると、宗派が浄土真宗から下檜沢太山寺末の真言宗に変わっていますが、永福寺は少なくとも寛永3年（1626）には存在していることが分かります。しかしその後、永福寺は住職が疫病で亡くなり、無住となってしまいました。そこで、寛文9年（1669）太山寺の住職が、水戸郊外にあった真言宗藤福寺の小田野への移動を、水戸藩寺社奉行に願い出ました。その結果、永福寺は藤福寺となりました。

その後、廃寺となり、三浦神社が建てられた経緯は不明です。しかし、三浦神社境内にある石碑「三浦神社改築記念碑」によると、藤福寺が廃された跡地に、

三浦神社と呼ばれる空智上人坐像を祀る小さな祠が存在し、地元有志らによってその神社が改築され、昭和4年（1929）10月に三浦神社の遷座祭を執行したと刻まれています。



▲木造 空智上人坐像

【現在も残る寺院時代の遺物・痕跡】

三浦神社の社殿内部や境内には、現在も寺院時代の遺物や痕跡が見られます。神社の祭神である「空智上人坐像」、元禄8年（1695）に徳川光圀が修復し、その旨が背面に刻まれる「不動明王立像」、平安時代後期の作で、現存する市内最古の仏像である「如来立像」、この3体の仏像はその代表です。このうち空智上人坐像と不動明王立像は、市指定文化財となっています。これらの仏像の他、社殿内には江戸時代に近隣村の檀家らにより、3つの桐の櫃に納められ寄附された、「大般若経」600巻が存在します。櫃には「大般若経 清隆山藤福寺」、「安永二年癸巳孟冬良辰」（＝1773年）等の墨書があります。

社殿の左奥側には墓石が13基残っています。この墓石の年代は享保2～文化元年（1717～1804）といずれも江戸時代のもので、その内8基は「法印○○之墓」という形式で名前が刻まれています。「法印」は僧位を示すものであり、藤福寺住職の墓ではないかと推測されます。その他にも、社殿に向かって参道の右側に墓石、供養塔、石仏等の石造物が20数点ほど確認できます。

社殿内は普段公開されていないので仏像等を見ることはできませんが、境内にある墓や石造物に、この地が寺院であった痕跡を見ることができます。

〈参考文献〉

- ・『美和村史』（美和村史編さん委員会、1993）、
- ・『昔の生活と風俗 美和村の民俗調査資料』（美和村郷土文化研究会、1977）

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111（内線344）